

## 2023年3月期 第2四半期決算短信(日本基準)(連結)

2022年11月9日

上場会社名 株式会社 ロブテックス  
 コード番号 5969 URL <https://www.lobtex.co.jp>  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 地引 俊為  
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役執行役員 管理部長 (氏名) 森下 幸治  
 四半期報告書提出予定日 2022年11月11日  
 配当支払開始予定日  
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無  
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

上場取引所 東  
 TEL 072-980-1110

(百万円未満切捨て)

### 1. 2023年3月期第2四半期の連結業績(2022年4月1日～2022年9月30日)

#### (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年3月期第2四半期	2,914	3.1	247	43.1	255	40.8	154	50.7
2022年3月期第2四半期	3,006	24.3	172	248.3	181	173.9	102	214.1

(注) 包括利益 2023年3月期第2四半期 141百万円 (2.5%) 2022年3月期第2四半期 138百万円 (60.3%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2023年3月期第2四半期	165.91	
2022年3月期第2四半期	110.12	

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2023年3月期第2四半期	8,539	4,538	50.5
2022年3月期	8,307	4,467	51.1

(参考) 自己資本 2023年3月期第2四半期 4,315百万円 2022年3月期 4,241百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2022年3月期		0.00		60.00	60.00
2023年3月期		0.00			
2023年3月期(予想)				60.00	60.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

### 3. 2023年3月期の連結業績予想(2022年4月1日～2023年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	6,570	7.7	470	22.5	490	25.1	290	29.0	310.54

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

#### 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- |                    |     |
|--------------------|-----|
| 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 | : 無 |
| 以外の会計方針の変更         | : 無 |
| 会計上の見積りの変更         | : 無 |
| 修正再表示              | : 無 |

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	2023年3月期2Q	1,000,000 株	2022年3月期	1,000,000 株
期末自己株式数	2023年3月期2Q	66,204 株	2022年3月期	66,144 株
期中平均株式数(四半期累計)	2023年3月期2Q	933,806 株	2022年3月期2Q	933,877 株

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

#### 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料の3ページ「1.当四半期決算に関する定性的情報(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

## ○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する説明 .....	2
(2) 財政状態に関する説明 .....	2
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 .....	4
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 .....	6
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書 .....	8
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 .....	9
(継続企業の前提に関する注記) .....	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	9
(セグメント情報等) .....	9

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間の我が国経済は、新型コロナウイルス感染症対策により、正常化に向けた動きが見られる一方で、原油や資材価格高騰・ウクライナ情勢等の影響もあり、まだまだ不透明な状況で推移しました。

このような状況の下、当社グループでは経営ビジョン「モノづくりのプロにゆえ、モノづくりの愉しさを育む」、経営スローガン「私たちは工具を通じ、あらゆるモノづくりの要求に応え、つくる愉しさを伝え広げる事で社会に貢献します」の発信と浸透を更に進め、経営課題である「業務の整流化を徹底し、利益体質の強化を図る」を追求し、経営目標達成に向け努力してまいりました。

そして、その経営ビジョンを推し進めるにあたり、経営課題の解決に向けた機能的な組織への変更を2022年4月に実施しました。

管理本部においては、ITシステム部を新設いたしました。従来の情報システム部門と営業企画のデータ管理部門並びに業務部を統合し、データ利用・活用を行い、顧客価値創造を重要テーマに、ITを駆使して対応に努めました。

モノづくり事業本部においては、購買部門を購買部として独立させ、取引先様との連携強化と新規取引先探索を行い、安定供給と適正価格及び品質を確保した調達に取り組みしました。

営業部門(営業企画部・第一営業部・第二営業部)については、売上至上主義から利益確保への意識付けを進め、粗利益・売上比率・販売費を徹底的に管理し、利益追求型の営業部隊へ移行を進めました。これまでの営業部で分類していた販売ルートをより現在の市場に合わせた組織に変更しました。中でも新設したストアセールスチームについては、ホームセンターとともにプロショップ等、店舗展開している販売先への強化を図ることで、エンドユーザーに寄り添った活動を進めてまいりました。

また、モノづくりの合理化を図るべく、製造拠点である鳥取ロブスターツール株式会社にはモノづくり合理化推進室を新設し、合理化推進と新規事業の検討を行いました。

なお、経営課題であります“利益体質の強化”を図るべく、現状課題については各種プロジェクトを発足し部門横断的に解決策を検討、実務部門に展開を進めました。未来を見据えた目指すべき将来像についても各種会議体にて描くべく活動を開始しました。

その結果、売上高は前年同期比3.1%減の29億1千4百万円(前年同期30億6百万円)となりましたが、利益面では売上原価率の改善及び販売費の効率的な活用により、営業利益では同43.1%増の2億4千7百万円(同1億7千2百万円)、経常利益では同40.8%増の2億5千5百万円(同1億8千1百万円)、親会社株主に帰属する四半期純利益では同50.7%増の1億5千4百万円(同1億2百万円)となりました。

セグメントごとの経営成績は、次のとおりであります。

#### (金属製品事業)

国内売上は、ファスナー関連の商品において、前年の大型物件分をカバーするだけの販売数量に及ばず、また、販売先において、ホームセンターでは一服感があり、減少しました。

一方、海外売上では拡販努力により主要販売先国である韓国向けが伸長し、増加しました。

また、原油や資材価格の高騰などによる商品原価の上昇への対応については、生産効率の向上、各種経費の節減実施に加え、価格改定を2022年1月度より実施しました。

その結果、金属製品事業の合計売上高は前年同期比3.0%減の27億7千5百万円(前年同期28億6千万円)となりました。利益面については売上原価率の改善及び販売費の効率的な活用により増益となり、同80.4%増の1億7千5百万円(同9千7百万円)のセグメント利益となりました。

#### (レジャー事業)

ゴルフ練習場における売上高は、コロナ禍においても感染対策を講じた上での営業継続に加え、サービス向上や集客施策、価格改定を実施してきました。しかしながら、例年以上の今夏の暑さの影響と新型コロナウイルス感染症の落ち着きにより、特需の一服感もあり、お客様一人当たり売上高は横ばいとなるものの入場者数が減少した結果、前年同期比5.1%減の1億3千9百万円(前年同期1億4千6百万円)となりました。セグメント利益についても経費節減に努めましたが、減収により、同4.6%減の7千2百万円(同7千5百万円)となりました。

### (2) 財政状態に関する説明

当第2四半期連結会計期間末における総資産は85億3千9百万円となり、前連結会計年度末に比べ2億3千1百万円増加しました。

## （資産）

流動資産は前連結会計年度末比2億9千1百万円増の59億4千4百万円となりました。これは主に現金及び預金や棚卸資産が増加したことによるものです。

固定資産は同5千9百万円減の25億9千5百万円となりました。これは主に退職給付に係る資産が増加する一方で、減価償却による有形固定資産の減少や投資有価証券の時価評価に伴う減少があったことによるものです。

## （負債）

流動負債は前連結会計年度末比6百万円減の24億4千4百万円となりました。これは主に短期借入金が増加する一方で、未払法人税等や1年内償還予定の社債が減少したことによるものです。

固定負債は同1億6千6百万円増の15億5千6百万円となりました。これは主に長期借入金が増加したことによるものです。

## （純資産）

純資産は前連結会計年度末比7千1百万円増の45億3千8百万円となりました。これは主に利益剰余金において配当支出による減少がある一方で、親会社株主に帰属する四半期純利益の計上による増加があったことによるものです。

## （キャッシュ・フローの状況の分析）

当第2四半期連結累計期間における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）の期末残高は、前連結会計年度末に比べ2億4百万円増加（前年同期4億9千3百万円増加）し、27億3千4百万円となりました。

## （営業活動によるキャッシュ・フロー）

棚卸資産の増加や法人税等の支払いがある一方で、税金等調整前四半期純利益及び減価償却費の計上や売上債権の減少などにより、資金が1億1千4百万円増加（前年同期4億9千3百万円増加）しました。

## （投資活動によるキャッシュ・フロー）

有形固定資産の取得を主因に、資金が2千3百万円減少（前年同期2千4百万円減少）しました。

## （財務活動によるキャッシュ・フロー）

配当金の支払やリース債務の返済などがありましたが、借入金収入により資金が1億1千4百万円増加（前年同期2千4百万円増加）しました。

## （3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当第2四半期業績は、概ね当初に想定した範囲内で推移しており、2022年5月12日に発表いたしました業績予想に変更はありません。

なお、業績予想につきましては、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2022年9月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	2,857,236	3,061,542
受取手形及び売掛金	1,007,125	958,115
電子記録債権	242,563	205,240
商品及び製品	955,200	1,036,392
仕掛品	298,913	323,539
原材料及び貯蔵品	223,371	277,405
その他	74,001	87,455
貸倒引当金	△5,743	△5,174
流動資産合計	5,652,669	5,944,517
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物 (純額)	829,296	792,406
土地	673,026	673,026
その他 (純額)	416,179	400,830
有形固定資産合計	1,918,502	1,866,263
無形固定資産	34,975	28,554
投資その他の資産	701,551	700,213
固定資産合計	2,655,030	2,595,031
資産合計	8,307,699	8,539,549

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2022年9月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	316,932	333,220
短期借入金	1,492,504	1,540,364
1年内償還予定の社債	30,000	-
未払法人税等	131,587	95,139
その他	479,558	475,644
流動負債合計	2,450,582	2,444,369
固定負債		
長期借入金	1,173,778	1,363,902
退職給付に係る負債	71,620	71,927
その他	144,578	120,411
固定負債合計	1,389,976	1,556,241
負債合計	3,840,559	4,000,611
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	960,000	960,000
資本剰余金	491,045	491,045
利益剰余金	2,785,243	2,884,143
自己株式	△164,155	△164,274
株主資本合計	4,072,133	4,170,914
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	169,370	144,096
その他の包括利益累計額合計	169,370	144,096
非支配株主持分	225,635	223,927
純資産合計	4,467,139	4,538,938
負債純資産合計	8,307,699	8,539,549

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書  
 (四半期連結損益計算書)  
 (第2四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)
売上高	3,006,861	2,914,421
売上原価	2,024,538	1,890,737
売上総利益	982,322	1,023,683
販売費及び一般管理費	809,464	776,253
営業利益	172,858	247,430
営業外収益		
受取配当金	6,765	9,343
受取家賃	2,009	2,084
為替差益	113	4,660
助成金収入	7,889	16
その他	5,012	3,611
営業外収益合計	21,791	19,717
営業外費用		
支払利息	12,063	10,784
その他	1,119	910
営業外費用合計	13,183	11,694
経常利益	181,466	255,452
税金等調整前四半期純利益	181,466	255,452
法人税等	58,520	88,065
四半期純利益	122,945	167,387
非支配株主に帰属する四半期純利益	20,104	12,456
親会社株主に帰属する四半期純利益	102,840	154,930

(四半期連結包括利益計算書)  
(第2四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)
四半期純利益	122,945	167,387
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	15,577	△25,438
その他の包括利益合計	15,577	△25,438
四半期包括利益	138,522	141,949
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	118,987	129,656
非支配株主に係る四半期包括利益	19,535	12,292

## (3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純利益	181,466	255,452
減価償却費	86,717	80,747
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	△424	△624
退職給付に係る負債の増減額 (△は減少)	△433	307
受取利息及び受取配当金	△6,777	△9,356
支払利息	12,063	10,784
助成金収入	△7,889	△16
為替差損益 (△は益)	265	722
売上債権の増減額 (△は増加)	215,711	86,333
棚卸資産の増減額 (△は増加)	50,252	△159,851
仕入債務の増減額 (△は減少)	35,046	16,288
その他の資産の増減額 (△は増加)	△60,264	△31,846
その他の負債の増減額 (△は減少)	28,460	△10,388
小計	534,195	238,553
利息及び配当金の受取額	6,777	9,356
利息の支払額	△12,795	△11,365
助成金の受取額	14,601	662
法人税等の支払額	△51,453	△123,196
法人税等の還付額	1,967	—
営業活動によるキャッシュ・フロー	493,291	114,009
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
定期預金の預入による支出	△276,600	△276,600
定期預金の払戻による収入	276,600	276,600
有形固定資産の取得による支出	△21,230	△18,304
無形固定資産の取得による支出	△640	△1,077
投資有価証券の取得による支出	△2,508	△4,582
その他	40	141
投資活動によるキャッシュ・フロー	△24,338	△23,823
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	82,000	—
長期借入れによる収入	400,000	590,000
長期借入金の返済による支出	△331,950	△352,016
社債の償還による支出	△30,000	△30,000
リース債務の返済による支出	△34,373	△22,991
自己株式の取得による支出	△60	△119
配当金の支払額	△46,694	△56,031
非支配株主への配当金の支払額	△14,000	△14,000
財務活動によるキャッシュ・フロー	24,921	114,842
現金及び現金同等物に係る換算差額	△265	△722
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	493,609	204,305
現金及び現金同等物の期首残高	2,193,062	2,530,636
現金及び現金同等物の四半期末残高	2,686,671	2,734,942

## (4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

## 【セグメント情報】

- I 前第2四半期連結累計期間（自 2021年4月1日 至 2021年9月30日）  
報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			その他 (注) 1	合計	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	金属製品事業	レジャー事業	計			
売上高						
外部顧客への売上高	2,860,077	146,784	3,006,861	—	3,006,861	3,006,861
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	—	—	—	—
計	2,860,077	146,784	3,006,861	—	3,006,861	3,006,861
セグメント利益	97,071	75,786	172,858	—	172,858	172,858

(注) 1 当社には、報告セグメントに含まれない事業セグメントはありません。

2 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と一致しております。

- II 当第2四半期連結累計期間（自 2022年4月1日 至 2022年9月30日）  
報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			その他 (注) 1	合計	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	金属製品事業	レジャー事業	計			
売上高						
外部顧客への売上高	2,775,076	139,344	2,914,421	—	2,914,421	2,914,421
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	—	—	—	—
計	2,775,076	139,344	2,914,421	—	2,914,421	2,914,421
セグメント利益	175,160	72,270	247,430	—	247,430	247,430

(注) 1 当社には、報告セグメントに含まれない事業セグメントはありません。

2 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と一致しております。